

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議室や事務所など目につくところに掲示し、確認しやすいようにしている。月1回のホーム会議ではその内容の実践にむけて気持ちの統一を図っている。	法人の理念である社是に基づき、ホーム独自の基本方針・コンセプト「いつまでも、どうぞ、あなたのままで」が立てられている。会議室、事務所に掲示したり、職員によっては指針を縮小コピーして携帯している。ホーム会議では理念に沿ったケアについて話し合い、支援の統一を具体的に図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長、区社協の方を中心に行事開催の情報をお個別に伝えていただいている。年3回のミニサロンには必ず参加して交流を図っている。市内の中学生や高校生の職場体験を受け入れている。	区費を納め区民の一員として交流している。行事等のお知らせを頂き、年3回公民館で開催される「ミニサロン」には毎回6～7名の利用者が参加し歌や劇を楽しまれている。職員がそのミニサロン付き添い時に、地域の方から個別に相談されることもある。毎年中学、高校生の職場体験を受け入れ利用者も楽しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の施設が地域内にあるとの事で見学を希望される方が有り、積極的に受け入れている。地区の行事や散歩等で交流を図る中で、スタッフの対応見て理解いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域、行政の担当者にお呼びし、3ヶ月に1回開催している。市の相談員制度にてお客様の要望を聞きだしていただき、それを交えて会で意見を集約しサービス向上に活かしている。	毎回通知を出し、3ヶ月に1回開催している。メンバーは家族、区長、介護相談員、市福祉課職員、法人の支店職員で、今のところ地域消防団員の出席は難しいという。活動状況や利用者の様子、職員の状況等の報告があり情報交換と共に活発に意見交換が行なわれ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に担当者の出席をお願いしている。認定調査の際には必要時、家族に代わって状況の説明を行っている。	介護相談員2名が月1回来訪して、丁寧に利用者の話を聞き意見を汲み上げそれをケアに活かしている。更新時の認定調査はホームで行い、調査員に状況を伝え協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修計画の中に組み込み、定期的実践している。身体拘束をしないケアに努めるとともに、緊急やむをえない場合の3つの要件についても、その内容を研修している。	平日は玄関を開錠し、事務室で出入りを確認している。各ユニット毎の出入口扉の鍵もなるべくかけないようにしているが、職員1名だけの対応時は家族の了解の下にかけることもある。身体拘束・虐待防止に関する研修は年間計画に基づき実施し拘束をしないケアを目指している。外出傾向のある方には一緒に外に出て一回りしたり、家族にも外出する機会を設けて頂いている。毎日のゴミ出しで外に出ることも良い気分転換になっている。	

ニチイケアセンター四賀・霧ヶ峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修計画の中に組み込んで実践している。虐待と思われる内容をスタッフ個々に書き出してもらい、まとめたものを張り出して目に付くようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止の研修にあわせて内容の把握を行っている。その必要性からの具体的な支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必要な説明を行い、理解の上で署名、捺印を頂いている。改定時も同様。(遠方のご家族には郵送し、文章を添えてその部分を示している。)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様には日頃から聞き取る姿勢を持って接している。ご家族には年1回、自社の顧客満足度調査において意見を頂いている。運営推進会議に来訪を呼びかけ、日頃の面会時とあわせて意見を聞き取る機会を設け反映に努めている。	殆どの利用者が思いを伝えることができる。数名の方は、きちんと問いかけをして表情等で思いを感じ取るようにしている。利用者の思いは業務日誌に記録し、朝・終礼時に職員間で情報を共有している。家族の来訪は週1回からほとんど来られない方と様々だが、請求書とともにホーム便り・一筆箋に最近の様子を個別に記してものを郵送している。それにより家族から意見を頂き話し合いに反映させている。本社の顧客満足度調査結果からも意見を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム会議やお客様の状態に合わせたカンファレンスの開催において、スタッフの意見の集約を図っている。お客様担当を決め、その方に応じた対応を発信してもらっている。	月1回のホーム会議、随時開催のユニット会議やカンファレンスで活発に話し合いができています。職員は互いに気付きやアイデアを出せる雰囲気があり、それがホーム全体の運営に活かされている。人事考課、目標管理制度もあり定期的に管理者と面談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の労働時間や条件に関して希望を取り入れ無理の無い勤務体制を作るとともに、お客様担当、業務担当等を決める事により、責任と意欲の持続を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議において研修を行うとともに、ニチイ学館岡谷支店で行われる研修を紹介し、シフトを調整して参加希望に応えている。		

ニチイケアセンター四賀・霧ヶ峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諏訪広域で行われる研修等に参加して同業者との交流を図っている。管理者、スタッフともにニチイ学館岡谷支店で開催される研修や会議に適宜参加し意見交換することで質の向上を図る努力をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式の書籍にてアセスメントを行い、その方の情報を収集しサービスに活かしている。安心の出来る居心地の良い環境づくりを基本に、ありのままを受け入れる姿勢を持ってスタッフは業務にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式の書式によりアセスメントを行っている。ご家族の思いを受け止め、要望に沿った計画書の作成を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの支援の方法を理解して頂くとともに、その方にあったサービスなのか、金銭的負担も含めて確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に行う事で意向が実現して行くとの認識をスタッフは持ち、その見極めをした上で支援を行う事を徹底している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調や日頃の変化など必要時には連絡をしている。お客様の希望や不穏時など電話での対応をお願いし、家族の協力は不可欠であることを理解して頂いている。徐々に面会が減っていくのも現実としてある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある友人の定期的な来訪、同窓会などの連絡の取次ぎ、参加に向けての支援などを行っている。	地元の友人が軽トラックで来訪されて楽しく談笑している利用者がいる。馴染みの美容院に家族付き添いで出かけた時、墓参りに行かれる方もいる。利用者同士も婦人会でのおしゃべりを楽しむかのような会話ができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性、女性、年代や要介護度等、相互の理解を深められるように食事の席を混ぜ、スタッフが間に入って支援している。		

ニチイケアセンター四賀・霧ヶ峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は必要が無ければ連絡を取り合う事は無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉を使って気持ちを伝える、表現をする事ができない方は表情、しぐさ、行動から察し、汲み取る努力をしている。何事にも説明と同意を得る事を統一している。	殆どの利用者は言葉で思いを表現できる。数名の方については表情や仕草から察している。食事作りに関しては利用者から「手伝うよ」と発言があったり、職員の「○○してもらえます?」という問いかけにより各自のできる範囲で役割を分担していただいている。自己決定の取り組みについては状況観察や適切な言葉かけで支援している。記録や申し送り時に職員間の情報の共有化ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様ごとの介護記録により、日々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの内容を基に担当者会議を開催する。ご家族には面会時や電話などで要望を聞き取り計画書の作成を行っている。状況に応じて計画書の内容を変更するように努めている。	各職員が2~3名の利用者を担当しているが、計画の見直しは担当者だけでなく全員で検討している。3ヶ月~半年に1回見直し、変化にも合わせて実施している。管理者とケアマネージャーが窓口となり家族の意見を伺い、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録により情報を共有し、必要な内容を盛り込んだ介護計画の作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに合わせ、個々にあったサービス提供を心がけている。		

ニチイケアセンター四賀・霧ヶ峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館活動に参加させて頂き、地域交流を楽しむ機会となっている。運営推進会議において、地区の消防団代表にお客様の状況を把握していただく中で有事の際の協力をお願いしている。		
30	(11)	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設提携医の訪問診療を月2回受けている。(16名)他病院、医院の主治医の受診を受けている方も居る。必要時にはいつでも相談ののって頂き、適切なアドバイスを受けている。	ホーム利用前のかかりつけ医を継続されている方は数名で家族が通院時に付き添い、何かあればホームからの情報を伝えている。あの方々はホーム協力医による月2回の往診を受けている。協力医からは随時、適切なアドバイスが受けられている。24時間対応の訪問看護ステーションから週1回2名の看護師が来訪し健康チェックを行い、職員が困難な爪切り等や個別相談にも応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の協力を得ている。週1回の訪問時には状況の説明をし、必要な指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書面での情報提供を心がけている。退院時にはカンファレンスに出席して退院後の受け入れが可能かも含め支援方法を検討している。医療連携相談室との連絡を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の医療連携加算の説明の際に施設側の考えをお伝えしている。お客様の状態に変化があった場合は、医療関係機関の協力を得ながら、後の対応をご家族に相談させて頂いて頂いている。	本人・家族には利用契約時に重度化対応について説明している。利用者の状態に応じて医療処置が必要となってくるとホーム協力医から家族に説明がある。その後の対応については家族と相談しながら病院や他の施設等を紹介している。移られるまではホームとしてできる限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の項目として取り組んでいる。有事にはスタッフ2人以上での状況確認、対応を統一している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。スタッフの緊急連絡網を作成し個々に配布。常に連絡が取れるように協力を要請している。地区の消防団にも運営推進会議にてお客様の状況を把握して頂き、有事の際の協力をお願いしている。	年2回、5・11月に火災想定避難訓練を実施している。1回は避難訓練に通報訓練、2回目は消火訓練を合わせて実施している。利用者もエレベーターを使用し、全員、玄関から駐車場に避難している。避難できると襷をかけて知らせている。地域との協力体制は特にないが、運営推進会議等で検討している。消防署からは設備点検で来訪された時にアドバイスを頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止の研修の中で配慮すべき重要な内容として意思統一を図った。接遇の研修においても言葉遣いや対応について行った。	利用者に対しては信頼関係の中で呼称を使い分けて、基本的には苗字・名前に「さん」付けでお呼びして、かしこまらずに接している。接遇研修等で職員は互いにプライバシーの確保や言葉遣いについても学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様に働きかける際にはどのような状態の方でも意思の確認を行い、言葉だけではない表情や仕草でも気持ちを汲むように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など可能な限り幅をもたせ、生活する上での負担の軽減を図っている。余暇の活用もスタッフ個々に工夫し、その方に合った内容を提案している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は任せていることが多い。スタッフの支援が必要な方でも、確認をしながら好みのものを用意させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はスタッフが考えているが希望を取り入れたり、行事、季節に合わせて変化をつけるように心がけている。好き嫌いを考慮し、個別のものを用意することもある。できることに関わって頂き作ることから楽しみを持って頂くようにしている。	途中から介助する数名の方を含めて殆どの方が、箸やスプーンで柔らかめの常食を自力摂取できている。状態に応じてミキサー食を介助して召し上がる方がおられた。献立は各ユニット毎に利用者の希望を入れて職員が立てている。調理や食後の洗い物、食器拭き等のお手伝いは利用者の力量に応じて積極的に関わって頂き、笑顔で取り組まれていた。行事食については弁当や惣菜を頼んで楽しまれている。桜祭りの花見弁当が好評であるという。家族からの野菜の差し入れもあり利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた形態により安全な食べやすい食事を提供している。摂取水分量は1日1500ccを目安にしている。その方によって食事時間以外でも飲み物や乳製品などを摂って頂き摂取水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝介助として義歯の消毒と保管、義歯の洗浄、歯磨き、声掛や洗面所への誘導とその方に合わせた口腔ケアの支援を行っている。食事介助や食事摂取の様子を確認し、必要に応じて担当医や歯科医師に繋いで指示を受けている。		

ニチイケアセンター四賀・霧ヶ峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認して声掛けや支援を行っている。リハビリパンツやパットを使用しながらご自身でトイレにいらっしゃる方がほとんどの状態である。	また、数名の方が布パンツ使用、全介助で、あとはリハビリパンツとパットを併用されている。食事の前後、活動の前後に毎回声かけすることは避けて、排泄記録表を確認し4時間以上間隔を開けないようなケアに取り組み、できるだけ意思表示ができるように排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や乳製品の摂取を働きかけているが、かつ同僚が少なく自力で排泄する力も弱くなっていることから服薬に頼る方がほとんどの状態である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めているが、その日の状態や希望により柔軟に対応している。	全介助の方は数名で浴槽の出入りは二人介助で行っている。あとは一部介助・見守りを受けながら週2回入浴されている。体調・気分に合わせて柔軟に対応している。入浴を拒む方、同性介助を要する方は今のところいない。利用者それぞれで、湯や入浴剤を入れ替えて一番風呂に入る方もおり、家族と温泉を楽しまれる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後や食後その方の生活パターンにより休息を取り入れている。就寝時には室温や湿度に配慮するとともに、週1回以上の敷き布類の洗濯をして清潔な気持ちよい状態を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師に指導を受けている。処方箋をお客様ごとに管理して必要時に内容の確認が出来るようにしている。変更時には管理日誌に記録をし周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中の活動に参加いただけるよう声掛けやお誘いを行う。介護計画にもあげ毎日の仕事としている。他の方々とスタッフと一緒に行事で負担にならない、その方にあった活動に合わせていく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望があれば戸外に出かけられるように調整を行う様つとめている。ご家族との交流や外出には協力している。区で行う集いには参加者を募って皆さんで外出の機会としている。	外出する時は車いすの方が3分の1以上で、あとは杖使用も含めて自力で歩行できる。日常的には毎日のゴミ出しの手伝い、玄関前の花の水やり、テラスでの洗濯物干しの手伝い等で外気に触れ気分転換を図っている。すぐ近くには名所となっている桜並木とスイセン畑があり、春には散歩に出かけ花見を楽しんでいる。ドライブなどの行事外出は難しいが、家族との外出の機会を大切にして支援している。	

ニチイケアセンター四賀・霧ヶ峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にお預かりしている事を伝え、希望に沿って必要品の購入をしている。スタッフの不足やお客様の歩行状態の悪化から買い物に出る機会がもてない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所や各ユニットで電話を使用できるようにしている。知人やご家族から手紙が届いた場合は電話などでその旨、連絡できるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中ほとんどの方がフロアにて過ごされている。皆さんが過ごされる場所を中心に季節を感じられるなどの工夫を心がけている。転倒の危険のないようにものの位置に留意し安心安全な生活空間になるように心がけている。	靴脱ぎ場からフラットな造りの玄関で、手づくりのクリスマス飾りが来訪者を迎えてくれる。各フロアの壁には今日の月日、曜日が手作りカレンダーで分かり易く表示されている。観葉植物の脇には利用者の行事の作品が飾られ季節を感じさせてくれる。日中、殆どの方が過ごされているフロアは清潔で、過ごしやすい雰囲気保たれ、おしゃべりやテレビを見たり利用者が思い思いの時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室以外は出入りを自由に行っている。食事の時間以外はテーブルの席を開放して落ち着けるところで過ごして頂いている。廊下の所々に椅子を置き自由に使っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお任せする事が多いが動線の安全確保や介助の必要性から、スタッフの意向をお伝えして理解を求める場合もある。	各居室にははめ込み式の大きな収納戸棚とハンガーフックが備え付けられ、エアコンによる温度管理がされている。そこに馴染みのタンスや机、イス、ベッドが持ち込まれ使い易く配置されてる。中には位牌を置かれ、毎朝手を合わせるなど自宅で過ごしていたように過ごされている利用者もいる。利用者がそれぞれ生活しやすく、居心地の良さを感ぜられるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの位置、使いやすいトイレ、分かりやすい表示などおひとりお一人に合わせた、ご本人の負担が小さくなるような分かりやすさを検討し続け、今まで通りに安心して出来るように支援している。		